



ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認
HSK通巻番号624号

発行 令和6年3月10日

毎月10日発行 定価100円
(維持会費を含む)

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話 (011) 222-4839

FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
細川久美子



ふきのとう文庫に期待するいっしょに子どもの未来に向けて

札幌市副市長 町田 隆 敏

私とふきのとう文庫との出会いは、今から約十年前、現在の桑園に新築移転してこられた落成記念式典でした。当時、私は教育長で、副市長だった現在の秋元市長と二人で出席させていただいたのですが、会場は関係の方やボランティアの方々で溢れ、開館を待ちかねた大勢の親子連れがお越しになっていたので覚えています。

(読書の意義)

今日、社会の変化はめまぐるしく、先行きの予測はいっそう困難になっています。今を生きる子どもたちには、多様な人々と協働しながら様々な変化を乗り越え、人生を切り拓いていくことが求められています。

こうした中であって、子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、創造力を豊かにするものです。心に残る絵本や文学作品に触れ、自然・科学の書籍や図鑑を読み深めながら、子どもたちは、読書の楽しさや、新たな知識を得る喜びを知ります。

(ふきのとう文庫の功績)

読書の恩恵を受けるには、幼少期からの継続した読書活動が重要ですが、そのためには、様々な機会や場所での子どもの興味・関心を惹く環境の充実が必要です。

札幌市においても、「さつぽろ親子絵本ふれあい事業」や「読書ノート」など、子どもが本と親しむきっかけづくりに取り組んでおりますが、ふきのとう文庫では五十年以上前から、地域の子どもたちに読書の場を提供してこられました。

また、令和元年には「読書バリアフリー法」が施行されたところですが、ふきのとう文庫では活動当初から、病気や障がいをもつ子どもたちに本の喜びを届ける取組を続けてこられました。

触って想像力を膨らませることが出来る布の絵本や、

見えにくさを抱える子どもにも読みやすい拡大写本は、札幌市の図書館や学校にもご提供いただき、多くの子どもたちに夢と希望を与えていただいているところです。

(ふきのとう・こどもクラブの取組)

そんなふきのとう文庫では、昨年七月、新たに「ふきのとう・こどもクラブ」の活動を始められました。

かつて子どもたちは、多くの大人に見守られ、同年齢・異年齢の子どもと関わりながら育ってきました。それが、共働き家庭の増加や少子化の進展などによって難しくなっており、近年、各地で「家でも学校でもない、子ども第三の居場所づくり」活動が進められています。

ふきのとう・こどもクラブも、第三の居場所の一つですが、読書に加え様々な遊びや学びに取り組みむなど、これまでの活動を超える挑戦です。しかし、その根底にあるのは、「すべての子どもに安心して安全な場を提供する」「将来にわたって幸福な生活を送ることができるよう支援する」ことであり、永年にわたって実践されてきたことと変わらないと考えます。

(結び)

子どもは、札幌の未来を創るかけがえのない存在です。すべての子どもが、毎日を安心して過ごしなが、夢と希望をもって成長していくことができる社会の実現が、私たちの共通の願いです。

ふきのとう文庫には、これからもすべての子どもに本を通じた喜びを届け、子どもが本来持っている主体性や創造力を伸ばしていく活動を、末永く続けていただきたいと思います。

結びに、ふきのとう文庫の皆さまのますますのご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、会報に寄せてのごあいさつとさせていただきます。

新築移転十年 新たな歴史へ踏み出す

公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

札幌市西区平和の「ふきのとう子ども図書館」を札幌市中央区に移転する構想を、私が理事会の席上で打ち出したのは二〇一〇年のことでした。私にとっては「清水の舞台」から飛び降りる思いでした。

早速理事会の賛同を得て移転活動に取り組みました。幸い当文庫内外の方々から多くのお力をいただいたことができて、新築移転、活動再開に漕ぎつけたのは、丁度今から十年前、二〇一四年二月でした。

土地は私と妻（現当文庫理事）が相続した地所を寄附することで確保しましたが、新築移転の費用はもともと存在せず〇からのスタートで、寄附金を募り補助金等を得てもまだ足りなくて、小林静江創設理事長が心血注いで築いた図書館の土地建物や蓄積金、基本財産まで投げ打ってやっと実現することができたのです。

移転の動機は、少子化を背景とした立地条件の低下と建物の経年劣化でして、活動・運営に直接的な問題があったわけではなく、将来にわたる活動の広まりと深まりを願うことです。

したがって移転後もこれまで蓄積されて来た活動の継承が主で、特に新しい活動の取り込みを考えたものとは言えません。

申し上げるまでもなく、当文庫の活動は、バリアフリーを前面に打ち出し、布の本や拡大写本を自からの手で製作し、それを図書館や福祉のネットワークを通じて広めて行こうとの目的を持ってやってきました。

施設の工房を持ち、自前で育成した優秀なボランティアの手によって製作されたものを、図書館

で閲覧、貸出、販売するに留まらず、長期入院児童のための「病院文庫」や、布の本の製作がループ横のつながりを持つ「仲間文庫」などでより広い活用を図ることも取り組んできました。それらは、現在縮小や断絶の流れの中にあり、コロナ禍など社会的要因も大きく影響されて、継承再生の道は厳しいものがあります。布の本について見ますと移転前は、専用の展示室やプレイルームもありましたが、それも移転により図書館内の一コーナーとして、大きく縮小されてしまい、継承できていない部分もあるのです。

他方、移転後は、札幌市の中心部で図書館としての立地条件が良く、図書館開館日も週二日から四日に倍増したこともあり、来館者、貸出冊数が大巾に増加しました。それを支えてくれる図書ボランティアの人手も得やすくなり、又、多目的ホールでのイベントも内容の広まりや回数の増加が顕著に見られるようになりました。

移転によって文庫の活動の中心が、バリアフリー本の製作拠点から、札幌市民により身近な地域図書館的役割になるという性格の変化をもたらしたと言えます。

ふきのとう文庫の存在はこれまでむしろ本州方面で知る人が多く、札幌の人は知らない人が多かったこれまでの傾向を思うと、その点では格段の前進と評価ができます。

しかし、もし札幌市の図書館行政がこれから充実されて行くとすれば、その分当文庫の特色が失われ、忘れ去られる存在にならないとは限りません。

あれもこれもと言うわけには行きませんが、こ

れまでの理念や活動を極力継承し、加えて新しい角度からその存在価値を高めて行かねばならないでしょう。

私は文庫だよりにこの十年間に色々書かせていただきましたが、それらは一層大きくなった経済面も含めた課題の羅列で、それを克服していく具体的方策には及んでいませんでした。

昨年実現した「COPさっぽろ」との連携協定、日本財団によって「こども第三の居場所」の活動拠点に指定されたことは、指摘してきた諸課題の克服と、これまでの延長線上で新しい領域への広がりや深まりに結び付くものであり、懸命に取り組んで行く絶好の目標です。

移転十年にしてこのようなテーマに行き着いたことは大変幸いです。皆様どうかよろしくお願い致します。



ふきのとう文庫子ども図書館

桑園に移設十周年

理事 高倉実枝子

二〇一四年二月二十三日はふきのとう子ども図書館が桑園に移設された記念の日です。早いもので創設者の小林静江様の意志を引き継ぎ地域に定着し根をはり十年の月日が流れました。地域の住民としては、市立中央図書館が移転になりました。ふきのとう子ども図書館が移設されたことは大変嬉しく大歓迎でした。若いご家族が揃って来館され、また図書館の中でママ友ができ親しく会話をしている姿をお見受けしては、地域のコミニティの役割も果たしていると思い移設できたことは良かったのだと思っております。

ふきのとう文庫は、「すべての子どもに本の喜びを！」をモットーに布の絵本そして拡大写本をボランティアの方々の手により作成し製本するという公立の図書館にない独自の活動が続けていますが、私設の図書館であるのでその運営の難しさ、厳しさもあります。樹の温もりのあるユニークな私設の図書館をなくしてはならないと、関係者は日々どうしたら末永く存続していくことができるかを模索しながらの運営であります。コロナ禍での危うい活動も手探り状態でしたが、やっと平常に戻りつつ継続できていることは何よりです。

日々の図書館運営の活動においては、図書ボランティアの方々をはじめ、布の絵本・拡大写本の製作ボランティアの方々の地道な活動に支えられて成り立っていることは、言うまでもありません。

また賛助会員をはじめ、心ある方々のご寄付によつて支えられて十年、感謝です。昨年からは、第三の居場所「日本財団基金」子どもクラブが併設され、お子さんたちが元気に活動できていることも大変嬉しいことです。

これからのふきのとう文庫には、「すべての子どもに本の喜びを！」の軸にぶれることなく、紙の絵本では得られない感触がある布の絵本から、五感を通して感性豊かな心を育み、小さい頃から集中心のある本好きな子へ成長していくお子さんたちのお手伝いができること、次に日曜日に実施されるイベント、おはなし会・歌う会・楽器演奏の会・手作り遊びの会などを通して、地域の方々との親交を深める拠点となっていくこと、最後に、子どもクラブが定着し継続していくことで、輝かしい未来社会を担う子どもたちの強い味方となり、心地良い居場所になりますよう期待しています。

ふきのとう文庫の

移転十周年に寄せて

理事 宝本 英明

公益財団法人ふきのとう文庫の移転十周年を祝い申し上げます。

ふきのとう文庫が、一般の子どもはもとより、長期入院やハンデキャップのある子どもたちに本に親しんでもらうためのさまざまな活動をされてこられたことに敬意を表させていただきます。

私は当初は評議員として、一昨年からは理事として運営に関わっており、特に令和五年七月からは、新たに事業を開始した子ども第三の居場所

「ふきのとう・子どもクラブ」について、担当理事として運営に携わっております。

すべての子どもたちが、こうした合理的配慮の提供を受けながら、適切な指導や必要な支援を受けられるようにすることが大切です。また、住み慣れた地域でも一人一人のニーズに応じた適切な支援が受けられ、孤立することなく、社会の一員として、包み支え合う環境づくりを進める必要が求められています。

今後も、子ども文庫としての特性を活かしつつ、子どもたちにとって居心地の良い場所となるよう、運営スタッフの皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

◆日曜催事のおはなし会

ふきのとう文庫おはなしの会 葛西 季子

「あめこんこん ゆきこんこん」、今日もわらべうたから、おはなし会が始まりました。素朴な言葉と美しい調べが心地よいわらべうたも、おはなしの一つとして、子どもたちと楽しんでいます。優しい穏やかな雰囲気の中で、子どもの年齢や季節など考えながら絵本を読みます。子どもの心をつかむ布絵本や、上質な拡大写本を使わせていただくこともあります。心の交流が生まれたおはなし会の後、熱心な親御さんがいろいろな絵本を手に取り本の貸出しにつながった時には、喜びを感じます。

西区平和の頃からおはなし会をされている足立さんとのご縁で今に至りますが、これからも温かい雰囲気はそのままに、「すべての子どもに本の喜びを」の種まきが続けたいと思います。

図書ボランティア（火曜） 中里 祐子

ふきのとう文庫が桑園に移転して十年がたち、私のボランティア活動も同じく十年になりました。子供の本に詳しいボランティアさんが多く、とても心強かったです。いつしか私も絵本と児童書が好きになりました。時々、「平和のふきのとうに通ってました。」と赤ちゃん連れのお母さんが来館されて、この文庫の活動が世代を越えて繋がっている事をうれしく思います。小さな子供達が、ふきのとう文庫でたくさんのお本と出会い、十年後、二十年後も心に残る一冊をみつめて欲しいと思います。

布の本 さくらグループ 井上せつ子

子供達や、本・布の本を愛する心優しい方々との触れ合いが幸せだなあと今更ながら思います。平和の時代から居るというだけで、役に立たないのに続けてこられた包容力は、『すべての子供に本の楽しさを』にもつながる優しさだと思います。ただコストパフォーマンス重視の現代、どこまで維持できるのか、コスバ優先になれば、他の図書館とは違う文庫らしさも失われないかと心配です。ボランティアのみなさんが、子供達と楽しく共感しあえるひろばが、これからも維持されることを心から願います。

拡大写本ボランティアに参加して

拡大写本 杉崎 政明

確か文庫だよりの巻頭言で人手不足を訴えられ

たのを拝読し、高倉理事長さんに「お手伝いできることがあれば」とご連絡したのが、きっかけでした。拡大写本のグループに入っていたとき、最初は分からないことばかりでしたが少しずつ活動に参加することが出来ました。それ以来何冊かの本ができて表紙や製本の素晴らしさがあって、私が関わったことを嬉しく思っています。これからの子どもたちが手にしたくなる本作りに少しでも貢献したいです。

布の本 さくらグループ 神山 晶子

三十年ほど前に北大病院の小児科病棟で初めてふきのとう文庫の布の本に出会いました。取り外しができカラフルな布の本とボランティアさん達の温かさに感銘を受けその数年後製作グループ「さくら」に入らせていただきました。未だに裁縫は得意ではありませんが、移転後の文庫は交通の便も良く冷暖房完備の恵まれた環境で、みんなでわいわいおしゃべりしながら楽しく活動が続いています。

こども図書館移設十年に思う

子ども催事担当（評議員） 斉藤 迪子

図書館移設十周年記念おめでとうございます。子ども催事を始めたのは三十数年前図書係をしていた時、ある理事に「子どもたちは手の労働や遊びの中で手と体を通して、友情や連帯の意味をつかんでゆき、何よりも子どもがあらゆる能力を発達させるための基本である能動性や積極性を身に着けていく」「遊具を上手に作れば遊びは一層

楽しく充実したものになる」等々の意見を聞いて始めたのが「手づくり遊び」で毎月開きました。子どもの心も体も健やかに育つためにはうたう会、おはなし会も必要と関係者に呼びかけたところ快諾をいただき、これは子ども催事の前身ですが延々と三十数年続いております。移転した今も多くの方々にご協力をいただき子どもたちに夢を与えコロナ禍の中でも楽しいひとときを過ごしていただくことができました。

子ども催事は子どもの成長過程で重要な役割を果たしてくれます。

図書係 鈴木美津子

三十路の息子が幼少期の頃、近所のイトーヨーカドーに子供図書館があり買物帰りに本をお借りするのが日課でした。私が十年間ボランティアを続けて来られたのは、ふきのとう文庫で楽しく絵本選びをされる親子さんの姿にノスタルジーを感じ、元気を貰えるチャージステーションに他ならないからだと思っています。数年前から庭の手入れを任され、サステイナブルな庭造りを目指してアレコレ試行錯誤して四季を楽しませてもらいました。寄贈された熊のトピアリーの上部までようやくアイビーが絡んでそれらしく見える様になった時は達成感で一杯になりました。撒いた種が芽吹き美しい花を咲かせる様に、これからのふきのとう文庫が益々地域に根ざして次の世代にも素晴らしい理念が受け継がれて行く事を願っています。

2023年11月以降賛助会費納入一覧

個人(18名)

赤澤みゆき 頭川 恵子 伊勢 成子
伊田 忍 伊藤 静雄 大浪 章子
鍛冶紀美子 川守田京子 栗岡 明子
高倉実枝子 高橋 有華 平岡佳代子
廣田 青次 藤田 宮子 古川 順子
三浦 航志 森永美恵子 山内美知子

団体(2団体)

伊達ブンブン文庫・葛西結花
ちいさなえほんや・ひだまり

2023年11月以降寄附金納入一覧

個人(15名)

青山 誠 青山 千春 飯村 俊幸
井村 裕夫 奥野 和弘 片山 知佳
呉 季陽 佐藤 一夫 周 芝安
杉下 清次 関口由紀子 田上 明子
竹田 浩之(こどもクラブ)
橋本真知子 宮澤 初恵

団体(9団体)

小樽グループパンダ・高橋昌子
株式会社 偕成社
ふたご座・畠山珠恵
ヘアースタンド・ネスト 川波和芳
PELISSIA
まりん・渡辺まりん
ラウンジ「わ」
生活クラブ生活協同組合
こくみん共済COOP

2023年11月以降寄贈一覧

11月7日 学研 児童書 1冊
11月12日 天神 洋子 書籍 10冊

賛助費、寄附、寄贈で芳名・行事一覧

11月15日 コアレックス道管(株)

11月19日 和野 徳子 トイレットペーパー
東出 ティッシュペーパー ケース
星野 康 コピー用紙
学研 児童書 1冊
児童社 児童書 1冊
児童社 児童書 1冊
山本 基子 児童書 1冊
杉下 清次 児童書 1冊
こどもクラブへ お菓子段ボール 2箱

12月3日 児童社 児童書 1冊
12月4日 児童社 児童書 1冊
12月14日 児童社 児童書 1冊
1月4日 児童社 児童書 1冊
2月5日 刈谷市中央図書館 児童書 1冊
2月9日 児童社 絵本 2冊
2月23日 児童社 絵本 1冊

行事一覧

11月12日 アンサンブル・フラテ演奏会
11月19日 おはなし会
11月22日 札幌白ゆり幼稚園 園児21名 来館
12月10日 運営会議
12月14日 うたう会
12月17日 道庁 立入検査
12月19日 おはなし会
12月28日 運営会議
12月28日 1月6日 休館
1月7日 開館
1月21日 おはなし会
1月28日 井上美豊子と楽しもう
2月18日 おはなし会
2月19日 NHK生中継
2月20日 運営会議
2月25日 腹話術
評議員会

子どものためのもよおし

予定表

2024年度上半期

4月14日(日)13時30分～二木彩子ピアノ演奏会
21日(日)13時30分～おはなし会
5月12日(日)13時30分～うたう会
19日(日)13時30分～おはなし会
6月2日(日)13時30分～南米楽器で楽しもう
9日(日)13時30分～井上美豊子と楽しもう!
16日(日)13時30分～おはなし会
7月7日(日)13時30分～うたう会
21日(日)13時30分～おはなし会
28日(日)13時30分～白毛 満「腹話術」
8月18日(日)13時30分～札幌シンフォニエッタ演奏会
25日(日)13時30分～おはなし会
9月8日(日)13時30分～うたう会
15日(日)13時30分～おはなし会
22日(日)13時30分～人形劇団ひよっこ
29日(日)13時30分～井上美豊子と楽しもう!



ふきのとう子ども図書館
TEL 222-4839 FAX 222-4800

子どものためのもよおし

予定表

2024年度下半期

10月6日(日)13時30分～アンサンブル・フラテ演奏会
20日(日)13時30分～おはなし会
11月17日(日)13時30分～おはなし会
24日(日)13時30分～白毛 満「腹話術」
12月8日(日)13時30分～うたう会
15日(日)13時30分～おはなし会
1月19日(日)13時30分～おはなし会
26日(日)13時30分～井上美豊子と楽しもう!
2月16日(日)13時30分～おはなし会
3月2日(日)13時30分～井上美豊子と楽しもう!
9日(日)13時30分～うたう会
16日(日)13時30分～おはなし会



ふきのとう子ども図書館
TEL 222-4839 FAX 222-4800

収 支 報 告

二月期までの進行は、収入の基幹である賛助会員収入が前年より減少し目標に届いておりません。個人会員および法人会員の停滞が問題でありまして新年度ではこの増勢を築いていくことが重要になります。

収支進行は、寄付金増加によることで収支残高が増えておりまして、ふきのとう・こどもクラブ収支も予算範囲で進行しております。事業収入は減少にありまして布の本などの委託生産の減少が影響しております。

2 月期累計 収支実績

令和 6 年度 2 月末

単位：円

	令和 5 年予算	令和 5 年 2 月末	前期決算	前々期決算
(収入の部)				
賛助会費	3,000,000	1,839,300	2,091,100	2,193,900
寄付金等	2,200,000	3,888,408	1,935,559	2,801,300
助成金	8,670,000	8,365,200	2,496,160	2,050,000
事業収入	1,600,000	1,219,794	2,030,374	1,818,604
雑収入	0	90	34	50
合 計	15,470,000	15,312,792	8,553,227	8,863,854
(支出の部)				
管理費	12,850,000	11,366,582	6,251,779	5,485,813
事業費	2,620,000	1,165,423	2,173,676	2,728,856
合 計	15,470,000	12,610,270	8,425,455	8,214,669
収支差益	0	2,702,522	127,772	649,185

第三の居場所事業・増床計画の進行について

札幌市内では初めての取組である第三の居場所事業（拠点名…ふきのとう・こどもクラブ）が、日本財団の助成を受け、昨年七月二日からスタートしました。昨年二月二十四日から全十二回もの準備会で協議

して、立ち上げの準備をして参りましたが、本事業の成否はこども達に関わる運営スタッフの人間性や力量に大きく左右されるものと考えられ、人材集めが最も重要な課題でした。幸運にも、二通先生はじめ関係者の紹介により、非常に優秀なスタッフに恵まれ、現在、こども達にとって居心地のよい居場所が提供され、とてもよい雰囲気クラブが運営されています。この場をお借りして、スタッフ、関係者のみなさまに厚く御礼申し上げます。

さて、本年四月から二年目（事業年度）の運営事業となりますが、新たに日本財団の助成を受け、ふきのとう文庫敷地内に、床面積約七十三㎡の「第三の居場所棟（仮称）」を設置する運びとなりました。既存施設と調和する木造平屋の暖かい空間の基本設計を安藤設計事務所に作成いただきましたが、これを基に詳細検討を行うための増床プロジェクト検討会を二月二十七日に立ち上げたところです。

現在、検討課題に挙げられていることとして、備品等の設置スペースの確保（有効床面積の拡張）、ロフト空間の適切な利用方法、安全性に配慮した動的遊び（うんてい、ボルダリング、はしご、ネット等）の設置、光熱費削減に資する太陽光発電設備等設置の資金調達（クラウドファンディング等）などがあります。三、四月頃までに内容を詰め、実施設計を経て、六、七月頃から建築開始、来年二月頃の完成を目指します。

引き続き、みなさまのご支援とご協力よろしくお願いたします。

第三の居場所・担当理事 大友 健太



(イメージ)

☆ 音楽の文化の最新ニュース

アンサンブル・フニテ 医学生によるクラシック演奏会

毎年恒例の医学生による演奏会が十一月十二日に行われました。今年で七回目になります。北海道大

学医学部学生を中心とする室内楽アンサンブルです。主に北海道大学病院などで入院患者さん向けのボランティア演奏を行っている医学科公認の学生団体の皆さんです。今回の演奏会には大人二十六人・子ども十七人の皆さんが集まりました。楽器の紹介から始まり「フルート」と「ピアノ」です。一曲目はみんなが知っている♪アンパンマンマーチの演奏です。ニコニコ笑顔の子ども達です。次にフルート単独演奏で♪星に願いを♪心地よい音色に癒されました。三曲目は歌♪ゆきやこんこん♪みんなで歌いましょう。四曲目はピアノ・フルート・ピアノで♪おもちのチャチャチャ♪、最後の曲は♪ドレミの歌♪親子で元気に歌いました。終了後は楽器に触って音を出してみたいです。年一回の本物の楽器演奏に触れるイベントです。来年もお楽しみに！

腹話術「白毛 満」と楽しもう！

二月二十五日に毎年恒例になった「腹話術」が行われ、大人十人・子ども九人が楽しい時間を過ごしました。今年度二回目の腹話術。いつも元気な「元氣くん」と「白毛満」さんが来てくれました。子ども催事担当の斉藤廸子さんからの挨拶から始まり、最初にはわがままな「おさるのもんだ」くんの登場です。好きな果物はなにかな。バナナ・いちご、りんご…。次はマリオネット「鳥の舞」ピンク色の可愛い鳥が不思議な動きをしながらみんなの周りを飛び回ります。子どもたちは元気な鳥にびっくりしています。続いてお待ちかねの「元氣くん」の登場です。元氣くんは動物園に行ってきた時のお話をしたり、クイズでみんなと楽しめました。最後に「皿回し」です。子ども達もカラフルな皿を回してたのしみです。日常では体験できない皿回しに子どもたちは夢中になって楽しんでいました。



令和六年度予算案について

令和五年度事業執行においては、七月二日より新規事業として第三の居場所「ふきのとう・こどもクラブ」の取り組みを開始した。新たに五名の運営スタッフ雇用と新たな諸費用が加算されることとなるが、基本的には日本財団の運営助成金を受け、ほぼ計画通りの展開で進行できた。ただし、運営助成金は令和七年度までであり令和八年度以降の運営に関しては自走財源を確保することが前提であり、今年度からの財源対策を計画していかなければならない。基本的には個人・法人賛助会員を増やしていくこと、さらに新たな助成金支援団体を見いだし、チャレンジしていくことが必要となってくる。

また、日本財団からの施設増床への助成金認定が受理できる見通しとなっており、確定後に新たに増床での補正予算策定が必要となってくる。

令和六年度 ふきのとう文庫事業計画(案)

一、令和六年度事業計画概要
令和五年度は新規事業「第三の居場所」の新規展開が七月二日より始まり準備期間短期の中、新

令和六年度 収支計画

単位：円

収入の部	令和4年度実績	令和5年度予算	令和6年度計画
1. 賛助会員収入	2,091,100	3,000,000	2,200,000
①個人賛助会員	1,892,100	2,600,000	2,000,000
②法人賛助会員	199,000	400,000	200,000
2. 寄附金等	1,935,559	2,200,000	2,500,000
①寄附金	1,935,559	2,200,000	2,500,000
②その他助成金	0	0	0
3. 助成金	2,496,160	8,670,000	9,608,400
①共同募金会配分金	1,400,000	1,400,000	1,400,000
②道新福祉基金	100,000	100,000	100,000
③日本財団	0	6,270,000	7,200,000
④その他	996,160	900,000	900,000
4. 事業収入	2,030,374	1,600,000	1,600,000
5. 雑収入	34	0	0
当期収入合計	8,553,227	15,470,000	15,900,000

支出の部	令和4年度実績	令和5年度予算	令和6年度予算
1. 管理費 計	62,517,779	12,850,000	13,126,600
2. 事業費 計	2,173,676	2,620,000	2,480,000
①図書運営費	483,147	450,000	450,000
②布の本制作費	747,376	850,000	850,000
③拡大写本制作費	327,488	350,000	350,000
④第3の居場所	0	370,000	240,000
⑤研修費	6,000	30,000	30,000
⑥機関誌発行	330,525	370,000	360,000
⑦子ども催事費	64,340	100,000	100,000
⑧展示会開催費	50,000	50,000	50,000
⑨普及・販促活動費	164,800	50,000	50,000
当期支出合計	8,425,455	15,470,000	15,606,600
収支差額(収入－支出)	127,772	0	293,400

たなスタッフを迎えスタートすることができた。活動目標へはもう一歩ではあるが、令和六年度活動の広がり大きな期待が寄せられている。期待効果として文庫利用への広がり、図書活動およびイベント活動への子ども参加増を目指していく。更に布の本および拡大写本での製作、ボランティアさんの育成活動および四事業を効果的に運営する運営スタッフおよび事務局のスキルアップも重要課題となる。

二、分野別事業計画

- (1) 子ども図書館の運営
 - ①開架・閉架合わせ図書の整備
 - ②未返却本の督促等の継続
 - ③来館する親子との交流の継続
 - ④病院文庫の継続
- (2) 布の本の製作
 - ①貸し出し用・販売用の布の本・遊具の製作
 - ②布の本・遊具の材料セットの製作
 - ③既存布の本の修理
 - ④病院内の図書コーナーへの貸し出し・寄贈
 - ⑤布の本購入先からの依頼による修理・修復
- (3) 拡大写本の製作と貸し出し
 - ①拡大写本の製作と貸し出し
 - ②弱視児童への拡大漢字本製作及び寄贈

三、ふきのとう文庫運営計画

- (1) 賛助会員・支援団体を拡充し財政の安定化を目指す
 - ①賛助会員を増やす取り組み
現賛助会員様への継続のお願いと、新たな参加者への呼びかけをHPおよびSNS等ではかっていく。さらに新たな団体会員様拡大へ取り組みを進めていく。
 - ②助成金支援団体を増やす取り組み
子育て支援活動の社会貢献活動(SDGs)として新たな助成金団体を調査し申請を進めていく。
- (2) コープさつばろなどの協働事業を計画し活動の広がりを目指します
 - ①コープ子育て活動として「コープドックステーション」などを協働開催し、文庫活動およびコープの活動を共有し相互の利用を高めていく。
- (3) 広報活動
 - ①機関誌の発行として「ふきのとう文庫だより」発行を三回計画します。(七月・十一月・三月)
 - ②刷新したHPをより分かりやすく伝わるように視聴拡大を勧めます。
 - ③こどもクラブでのSNS発信を多様に進め広がり作りを目指します。
- (4) 布の本・拡大写本の普及計画
 - ①布の本の製作スタッフを養成する講座等を計画します。(令和五年実施事例)
 - ②布の本・拡大写本の貸出先および寄贈先の調整をはかり広がりを進めます。

本だな

業務執行理事 杉山 一夫

私の好きな絵本作家の一人、バージニア・リー・バートン（一九〇九―一九六八）についてお話をしたいと思います。彼女の作品には『ちいさいおうち』『名馬キャリコ』『せいめいのれきし』などがあります。なかでも『せいめいのれきし』は一九六二年の完成まで八年の歳月をかけています。また、死後五十年近く経って改訂版も出版されています。いずれの本も文庫にありますので興味のある方は手に取ってみてください。

先日、NHKでふきのとう文庫が紹介されていました。知り合いの九十二歳のご婦人がそれを見て、「小林静江さんが岩波にいた頃、バージニア・リー・バートンの原画を持ち出して会社からひどく叱られた、と楽しそうに話していましたよ」と私に教えてくれました。一九六四年に来日した頃のことかなと思います。貴重な話が聞けました。



「NHK：ほっとニュース北海道」で放送されました

二月十九日十八時四十五分から、NHK「ほっとニュース北海道」番組でふきのとう文庫の布の本の取り組みについての実況放送が行われました。取り組みについてのインタビュー対応は柳原理事にお願いし、エキストラは三組七名の親子利用者に参加いただきました。

ふだんは余り目につかない「布の本」について紹介されたことで利用の広がりに期待がもてました。



あとがき

百三十二号はふきのとう文庫が桑園地区へ移設して十周年となり、この十周年記念を編集テーマとさせて頂いていただきました。二月二十三日が記念日に当たり、たくさんの関りをいただいた皆様にご寄稿をいただきました。町田副市長様には移転当初から札幌市教育長の立場から、幾度も訪問をいただきご指導を賜っております。ふきのとう文庫は、さらに地域のこどもたちに根差した文庫とし、ふきのとうの強い芽生えを目指して参ります。

（横澤 記）

編集 公益財団法人ふきのとう文庫
代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北 6 条西12丁目 8
☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800
http://www.fukinotou.org
E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp
令和 6 年 3 月10日 発行
毎月10日発行 定価100円（維持会費に含む）

昭和48年 1 月13日 第三種郵便物承認
HSK 通巻624号
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
細 川 久美子

郵便振替 = 02720-3-2300 銀行口座 = 北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、「北海道共同募金会の配分」により刊行しています。
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。